

「板東俘虜収容所」開所100周年・ユネスコ「世界の記憶」 登録推進講演会

テーマ 「ドイツ兵捕虜が残した遺産を再評価する」

開催日時 第1回 平成29年10月29日 (日) 13:00～

第2回 平成29年11月23日 (木・祝) 13:00～

会場 鳴門市ドイツ館 大会議室

入場 無料



スポーツ大会プログラム
1919年



体操協会の活動記録
1919年



ベートーヴェン交響曲第九番
コンサートプログラム
1918年



クリスマスコンサートプログラム
1918年



カレンダー表紙
1919年

第1回 平成29年10月29日 (日) 13:00～



講演1 別府大学文学部文化学科教授 安松みゆき 氏
演題 捕虜たちのデザイン力「板東俘虜収容所」とウィーン世紀末美術
報告 鳴門市ドイツ館学芸員 長谷川純子
演題 「板東俘虜収容所」における美術活動とドイツ館所蔵資料の保存
- ユネスコ「世界の記憶」登録申請の意義について -



第2回 平成29年11月23日 (木・祝) 13:00～



講演2 鹿屋体育大学体育学部教授・付属図書館長 山田理恵 氏
演題 「板東俘虜収容所」のレガシー - 捕虜生活におけるスポーツ活動再検討 -
講演3 東洋大学国際地域学部国際観光学科教授 市田せつ子 氏
演題 ドイツ人の旅の源流と第一次世界大戦



2017(平成29)年は、「板東俘虜収容所」が開所して100周年の節目の年となります。「板東俘虜収容所」は1917(大正6)年4月に、徳島・丸亀・松山にあったドイツ兵捕虜収容所を統合した施設で、日独戦争に関する収容所としては最後に設置されました。

収容所で暮らした捕虜の多くは、アジア諸国で商人や技術者・教育者として活躍していたドイツ人であったため、さまざまな技術と教養をもった集団でした。彼らは、収容所の規則の範囲内で自主的な活動を認められたことから、演奏会や演劇・スポーツ活動・講習会などを組織的に実施するとともに、その活動を伝えるために情報誌やイベントプログラムの製作を日々続けました。

今回の講演会は、芸術・スポーツ・観光の3つの視点から「板東俘虜収容所」における捕虜の活動を再評価し、彼らが収容所生活をどのように捉え意義あるものに変えていったのかを探ってきたいと思います。

主催 鳴門市 徳島県教育委員会

後援 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館 (社)徳島新聞社 朝日新聞徳島総局 読売新聞徳島支局 毎日新聞徳島支局 四国放送 (株) NHK徳島放送局 テレビ鳴門 エーアイテレビ (株) ひのきキューテレビ エフエムびざん



講演1 別府大学文学部文化学科教授 安松みゆき 氏

演 題 捕虜たちのデザイン力「板東俘虜収容所」とウィーン世紀末美術

板東俘虜収容所で制作されたポスターや絵はかき等の印刷物のデザインは美術作品としての質の高さを示し、ほぼ同時期に西欧で流行したウィーン世紀末美術との類似性が見られる。そのため、収容所の印刷物は、捕虜という特異な環境下での制作という記録的価値と、それにもかかわらず最新の美術動向と結びついた美術的価値との両面を合わせ持つことを提示する。



講演2 鹿屋体育大学

山田理恵 氏

演 題 「板東俘虜収容所」のレガシー 捕虜生活におけるスポーツ活動の現代的意義

板東俘虜収容所のドイツ兵捕虜たちによって実践された体育・スポーツ活動は、今日の我々に、身体運動文化の在り方や意義を、ひいては人間の文化の意味を問い直させるものである。ここでは、そのような彼らの活動の足跡を、スポーツ史研究の立場から「板東俘虜収容所のレガシー（遺産）」として考察してみたい。



講演3 東洋大学国際地域学部国際観光学科教授 市田せつ子 氏

演 題 ドイツ人の旅の源流と第一次世界大戦

ドイツ語で旅行者はReisende（ライゼンデ）と呼ばれ、語形から言って、それは「旅の途上にある人たち」と言う意味になる。そして中世の職人の渡り歩きがwandern（ヴァンデルン）、また近代のアメリカへの移民はauswandern（アウスヴァンデルン）と言い表されてきた。

板東収容所に集まった人たちは、様々な理由でドイツを遠く離れ生活のためには別の文化圏を選んだ人たちである。

その中心となったグループはドイツを代表し、ドイツ文化を伝えようとしたであろうが、他方で、当時のドイツで起きていた生活改革運動を背景にドイツに対する批判の心を持ってドイツを飛び出した若者も含まれていたからしれない。

本報告ではドイツ人のwandernの背景について考察し、2012年に出版され、ドイツ南洋植民地で生活改革運動を試みた実在の主人公を描いた『帝国』をもとに、20世紀初頭の観光者、旅行者、移住者の接点をこの収容所での生活にも探っていく。



ドイツ館と賀川豊彦記念館で「友愛の記憶展part2」を開催しています

ドイツ館 2階企画展示室

ユネスコ「世界の記憶」登録申請資料から見たドイツ兵捕虜が残したバンドーの風景展
期間 10月7日(土)～11月26日(日)

賀川豊彦記念館 2階大会議室

戦争のない世界をめざして一世界連邦運動の父賀川豊彦一展
期間 10月7日(土)～11月15日(木) 電話088-689-5050

開館時間9:30～17:00(入館16:30まで) 休館日 第4月曜日(有料)

鳴門市は、徳島県・ドイツ ニーダザクセン州・リューネブルグ市と共同で「板東俘虜収容所関係資料」をユネスコ「世界の記憶」への登録を目指しています。